

音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース(レコーディング専攻)
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	電気・舞台知識Ⅱ	74	2	4
講義	PC知識Ⅱ	74	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	74	2	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
実習	DAW&TheoryⅡ	74	2	2
実習	Pro ToolsⅡ	148	4	4
演習	レコーディングⅡ	148	4	8
合計		888	24	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。</p> <p>②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。</p> <p>③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。</p> <p>・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることが出来る。</p> <p>・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</p>					

対策	
【前期】 1～4回目	・就職面接対策 ・筆記対策
【前期】 5～8回目	・マナーの基本(第一印象、あいさつ、身だしなみ、態度、表情、姿勢)復習 ・敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、クッション言葉、間違えやすい敬語)復習
【前期】 9～12回目	・コミュニケーション(聞き方・話し方、接客の言葉遣い、お客さま心理の理解)
【前期】 13～16回目	・ビジネスマナー①(ビジネスマナーの意義、来客対応、訪問のマナー、電話対応)
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。接遇の基本、言葉遣いなどに関わる知識や技能を問う。
【後期】 20～23回目	・ビジネスマナー②(ビジネス文書、ビジネスメール、指示の受け方・報告のしかた)
【後期】 24～27回目	・日本のしきたり①(冠婚葬祭のマナー、年中行事、贈り物のマナー)
【後期】 28～31回目	・日本のしきたり②(食事のマナー「和食・洋食・中華」、お酒のマナー)
【後期】 32～35回目	・社会人としての心構え(企業人としての必要要素、職場のルールとマナー、環境設備、ストレス対策)
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。オフィスワーク、日本のしきたりなどに関わる知識や技能を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはこれから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディードなど多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし音楽史に関する講義を行う。				
授業概要					
電話機の誕生や蓄音機の発明まで遡り、スピーカー、ミキシングコンソールやレコーディング機材などの音響・録音技術がどのような発展を遂げてきたか、また、レコード、カセット、MD、CD、デジタルオーディオプレイヤーやインターネット上のコンテンツなどの音楽メディアの変遷を学び、時代背景や技術の発達知識を習得する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・電気音響工学の変遷を学び、今日使用されている機材への理解を深める。 ・流通している音楽メディアの変遷を学ぶ事で、普段聴いている音楽への知識を高めると同時に、今後も進化して行くであろう音楽メディアへ対応出来る教養を身につけ音響、録音機材の歴史、音楽メディアの変遷への教養を高める事で、現場で活かせる知識を養う。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要の説明。 音響の成り立ち、PAIについて。
【前期】 5～8回目	MTRからDAWまでの変遷。 ダイナミックマイクロフォンについて。
【前期】 9～12回目	コンデンサーマイクロフォンについて。 マイクロフォンの成り立ちについて。
【前期】 13～16回目	蓄音機についてレポートを作成。 ミキシングコンソールの変遷。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期授業内容から抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。
【後期】 20～23回目	音楽メディアの変遷。 デジタル技術の発展について。
【後期】 24～27回目	1940年代～1960年代の音響、録音技術に関する講義。
【後期】 28～31回目	1970年代～1980年代の音響、録音技術に関する講義。
【後期】 32～35回目	1990年代から現在に至るまでの音響、録音技術に関する講義。
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場で扱う機材の変遷を知る事で、各メーカーが出す機材の意図を垣間みる事が出来る様になるはずですが、そこを抑えておけば、今後新しい機材が出た際や、音響・録音の概念が時代とともに変化しても対応出来る知識が身につきます。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	電気・舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡で照明家として活動中。近年では、Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレート、福岡発アイドルグループ「LinQ」の専属照明オペレーターや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。 上記の経験を活かし電気と舞台全般における講義を行う。				
授業概要					
<p>①芸能の発生から芝居小屋の広がり、近代の公会堂、劇場、ホールへと歴史的に変化していった、日本の劇場、ホールについての学習する。</p> <p>②世界の劇場建築の変遷について、ギリシャからローマ時代、オペラ、クラシック音楽などの上演に適した専門劇場の形態を学習する。</p>					
到達目標					
<p>・卒業後、劇場等演出空間での創造性溢れる自由な表現活動に携わるスタッフに求められるのは、高度な創造と制作であり、さらには円滑で、より安全な公演実施には、音響、照明などの分野を超えた共通認識が必要とされ、公演に携わる者のコミュニケーションのために、必要不可欠な知識を習得が求められる。制作スタッフは、専門教科内で身につける知識とは別に、劇場が歴史的に、また洋の東西を超えて、文化創成、文化発信、文化体感の空間であることを認識することで、単なる技術者にとどまることなく、文化の一翼を担う、インテリジェンスを身につけた存在を到達目標とする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	●社会の中での芸能とホールの存在意義。
【前期】 5～8回目	●日本の公立劇場とホール。
【前期】 9～12回目	●欧州のホールの歴史、構造と文化的背景。
【前期】 13～16回目	●ホール、劇場の性能と機能。
【前期】 17～19回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	●文化芸術政策と劇場ホール。
【後期】 24～27回目	●実演芸術の制作。
【後期】 28～31回目	●劇場・音楽堂 その設備と運用の実際。
【後期】 32～35回目	●総括。
【後期】 36～37回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	卒業後の進路であるイベント制作会社、音響会社、照明会社、ローディー会社、プロダクション等の現場に臨むに当たり、これからエンターテインメント就労する中では、習得する機会のない基礎的な舞台全般知識の習得を目指します。
備考	舞台技術の共通基礎

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント福岡校のイベント制作コースを卒業後、企画制作コースのアシスタントとして勤務。並行してアーティストのマネージャーも担当。この授業では上記の経験を活かし、企画制作、マネージャー、レコーディングに特化したPCの授業を行う。				
授業概要					
パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなせることが必須項目である。この講義では、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と応用的な使いかたを学ぶ。					
到達目標					
<p>・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。</p> <p>・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどである。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Excelレイアウトの応用。(Excel方眼紙、枠線の練習)
【前期】 5～8回目	Excel関数の紹介。(SUM, MAX, MIN, AVERAGE, IF, IFERROR)
【前期】 9～12回目	Excel関数の紹介(VLOOKUP)、マクロの基本、Wordの復習。
【前期】 13～16回目	Wordのレイアウト要素確認。(用紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【前期】 17～19回目	■前期試験: Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 20～23回目	Wordのレイアウト要素確認。(表、画像の埋め込み、紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【後期】 24～27回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方①、ストーリー作成①、サンプルプレゼンテーション①(発表)
【後期】 28～31回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方②、ストーリー作成②、サンプルプレゼンテーション②(発表)
【後期】 32～35回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について復習。
【後期】 36～37回目	■後期試験: 実技試験のみ(Word/Excel/PowerPoint) 用途に応じて、これらOfficeソフトウェアを適切に選択し、学んだ技術を駆使しつつ、創造力をいかして課題を解決する文書ファイルが作成できるかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないパソコンによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスや音響会社に長年在籍の後、現在はフリーランスとして福岡を拠点とするアーティストや劇団の専属PAを担当する他、様々なイベントにおいてステージ進行の業務に従事。 上記の経験を活かし音響全般における講義を行う。				
授業概要					
<p>①音響に関する専門用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する応用知識を学ぶ。</p> <p>②スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・実際の現場では時間がなかったりなど、わからないことでも聞きづらい状況は多々あります。音響の基礎から応用までを学習し、実作業の中で実際に活かせる知識を身につけます。</p> <p>・音響に対する幅広い知識を身につけ、実務での予期せぬ自体にでも活かせる用に理解度を深めるのが到達目標です。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音響に関する電気知識・電気抵抗について。
【前期】 5～8回目	空間系・ダイナミクス系エフェクターについて。
【前期】 9～12回目	デジタル技術・機器間の同期について。
【前期】 13～16回目	デシベルや音圧について。 前期の復習。
【前期】 17～19回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	1年次から2年次前期までの復習と補足① 最新のPA・レコーディングシステムについて①
【後期】 24～27回目	1年次から2年次前期までの復習と補足② 最新のPA・レコーディングシステムについて②
【後期】 28～31回目	レポート作成①
【後期】 32～35回目	レポート作成②
【後期】 36～37回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響に関する基本的なことから応用まで、実務で使用する知識を学習します。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディードなど多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かしサウンドアナライズに関する実習を行う。				
授業概要					
①チェストボイス、ミックスボイス、ヘッドボイスやファルセットなどの歌声、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム及びキーボードなど様々な「音」を分析し、それぞれの性質及び特徴を理解するとともに音響エンジニアとして必要な応用知識を身につける。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・歌声の種類を理解する。 ・楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析する。 ・DAWソフトを使用して、視覚的、聴覚的に理解度を深める。 ・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。 ・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。
【前期】 5～8回目	アコースティックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 9～12回目	エレキギターに関する音の分析、解説。
【前期】 13～16回目	ベースギターに関する音の分析、解説。
【前期】 17～19回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 20～23回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 24～27回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 28～31回目	鍵盤楽器に関する音の分析、解説。
【後期】 32～35回目	その他の楽器に関する音の解説。
【後期】 36～37回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW&Theory II		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW&Theory II	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。 アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。 上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①サウンド・ポスト・プロダクション・スタジオにおける、より実践的な音響／映像の信号の流れを学習し理解する。 ②ナレーションやアフレコ、フォーリー及びサラウンドといった、サウンド・ポスト・プロダクションの応用技術を習得する。 ③スタジオでの演者や監督等に対する、より実戦的な業務上必要な応対法等の習得など。 ④声優科との合同卒業制作により、一つの作品を完成させる迄の具体的なワークフローを習得する。</p>					
到達目標					
<p>・ナレーション、アフレコ、フォーリーなどサウンド・プロダクションの流れを理解するとともに映像との同期など学び、業務上必要な応対法等の習得など実践に活かせるようにする。</p> <p>・サウンドポストプロダクションスタジオの信号の流れを理解し、ナレーション／アフレコ／フォーリーといったサウンド・プロダクションにおいて、マイク・セッティング／サウンド・チェック等、素早かつ確かな対応を行える。</p> <p>・音響機器と映像機器の連動の仕組みやポスト・プロダクションにおけるワークフローが理解できる。</p>					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	Pro Tools/Video Slave的的確且つ効率的なオペレーション能力の向上。				
【前期】 5～8回目	CMIにおけるSE及びMEの統一感を含めた整音作業。 フォーリー作業が必要な箇所の検証とリスト作成。 フォーリー作業での発生音の工夫とマイクセッティング/編集、及びディレクション能力の向上。				
【前期】 9～12回目	アフレコ収録。 アフレコセッション時のマイク及びブルーティングのセッティング、各キャストと立ち位置、使用マイクの選定。 映像システムのセットアップの的確且つ迅速な対応能力の向上。				
【前期】 13～16回目	簡易レコーダー、集音マイク素材を使用しての整音作業。 ノイズ除去ソフトRXを使用したノイズ除去。				
【前期】 17～19回目	■前期試験:実技試験を実施し、映像システムのセットアップの的確且つ迅速な対応能力が習得しているかを問う。				
【後期】 20～23回目	サラウンドシステムのシグナルフローの学習と理解。				
【後期】 24～27回目	サラウンドシステムの扱いについての学習と理解。				
【後期】 28～31回目	卒業制作①				
【後期】 32～35回目	卒業制作②				
【後期】 36～37回目	■前期試験:実技試験を実施し、授業内でアフレコ収録。アフレコセッション時のマイク及びブルーティングのセッティング、各キャストと立ち位置、使用マイクの選定。映像システムのセットアップの的確且つ迅速に行われているかMAとしての技術を問う。				
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。				
学生へのメッセージ	基本的なことから応用まで、実践的な内容を想定して学んでいきます。 わからないところはわかるまで解説しますので安心して下さい。				
備考	特に無し。				

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	Pro Tools II		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	Pro Tools II		年次	2年次
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約20年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。 上記の経験を活かしPro Toolsの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①Pro Tools における編集、ミキシング技術を学びさまざまな要望に迅速に対応できる技術を習得する。</p> <p>②Pro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践でも活用できるよう学習し、1年時に学習した内容を踏まえ、一つの作品が仕上がるまでの一連の流れを実践・経験する。</p>					
到達目標					
<p>・レコーディングを円滑に進行できるようPro Toolsにおける編集、操作技術を習得し、迅速に録音現場を実用できるようになる。</p> <p>・Mac PC、Pro Toolsの基本的な構造や使い方の理解及びトラブルシューティングやMac、Pro Toolsにおける細かい設定法や、それに伴う知識を習得し、実践に活かせるようになる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	レコーディング時に使用するProTools の機能や操作(ショートカット、プレイリストの活用、タイム管理など)の理解を深める。 レコーディング時に迅速に対応するための手法を学び練習する。
【前期】 9～16回目	Pro Tools の編集機能について。 リズムセクションのタイミング補正技術の向上、ストリップサイレンス、エラスティックオーディオなどProTools の波形編集の理解を深める。
【前期】 17～24回目	Pro Tools の機能について。 TCETリマツール、audiosuite、ペンシルツール等のツールの使用法、トラックビューセクターでのプレイリスト表示、テイク作成、プラグインの使用に伴うレイテンシーの遅延補正など。
【前期】 25～32回目	Pro Tools と連携させた、MelodyneやRXを使用したピッチ修正やノイズ除去について。
【前期】 33～37回目	■前期試験:主にPro Toolsにおいて実践的なシチュエーションでのトラブルシューティングなどを行い対応能力を判断する。
【後期】 38～45回目	クリップゲイン、オートメーション、VCA、マスターフェーダーなど音量管理について。
【後期】 46～53回目	Pro Tools実習にて学んだ項目を復習し理解を深める。 ProTools でのミックスダウンの手法や便利機能について。 セッションデータの整理の方法(未使用のクリップ、プレイリストの消去、セッションのコピー保存等の理解。)
【後期】 54～61回目	2年間Pro Tools実習にて学んだ項目を復習し理解を深める。 録音した素材を使用し、楽曲編集・ミックスを行う。 視聴会などを行い改善点やアイデアを出し合うなど。
【後期】 62～69回目	2年間Pro Tools実習にて学んだ項目を復習し理解を深める。 録音した素材を使用し、楽曲編集・ミックスを行う。 視聴会などを行い改善点やアイデアを出し合うなど。
【後期】 70～74回目	■後期試験:実際のレコーディング環境を再現し、さまざまなクライアント・アーティストからの要望への対応能力を判断する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解/正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際のレコーディングの現場の流れなどを学び、Pro Tools及びPro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得します。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディングⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約20年エンジニアとして様々なアーティストのレコーディング業務に従事。また、自身もアーティストとして精力的なバンド活動を行う。 上記の経験を活かしレコーディングにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①レコーディングスタジオを使用して、マイキングや回線チェックなどの機材セッティングの手順及び方法を学ぶとともに、Pro Toolsの発展的なオペレート技術を習得する。</p> <p>②実際にナレーションやバンドのレコーディングをオペレートする事でレコーディング及びMAエンジニアとしての経験を積んでいく。</p>					
到達目標					
<p>Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。</p> <p>RXを用いた録音音声などのノイズ除去技術の習得。</p> <p>Pro ToolsやRXを使用してさまざまな音声素材に対する編集、ノイズ除去を学習し、実務で対応できるようにする。</p> <p>・アプリケーション(Pro Tools、RX、Video Slave)の操作において、ショート・カット等を用いて、滞りなく各セッションを進めることができる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	ProToolsを使用したSE及びMEの統一感を含めた整音作業。
【前期】 9～16回目	フォーリー素材、SE及びMEの統一感を含めた整音作業。 Pro Tools でのノイズ除去。
【前期】 17～24回目	アフレコ素材、SE及びMEの統一感を含めた整音作業。 視聴会。(整音作業、ミックスに関するディスカッション)
【前期】 25～32回目	ノイズ除去ソフトRXを使用したノイズ除去。 ライブウィークに向けた担当シーンの割り当てやMIX作業に関するディスカッション。
【前期】 33～37回目	■前期試験:実技試験を実施し、ノイズ除去ソフトRXを使用したノイズ除去の正確性及び機材操作を問う。
【後期】 38～45回目	Pro Toolsの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上①
【後期】 46～53回目	Pro Toolsの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上②
【後期】 54～61回目	卒業制作①
【後期】 62～69回目	卒業制作②
【後期】 70～74回目	■後期試験:実技試験を実施し、MAにおけるPro Toolsの操作性全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際のレコーディングの現場の流れなどを学び、Pro Tools及びPro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得する。
備考	特になし。

音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース(MA専攻)
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	電気・舞台知識Ⅱ	74	2	4
講義	PC知識Ⅱ	74	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	74	2	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
実習	映像Ⅱ	74	2	2
実習	Pro ToolsⅡ	148	4	4
演習	レコーディングⅡ	148	4	8
合計		888	24	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。</p> <p>②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。</p> <p>③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。 					

対策	
【前期】 1～4回目	・就職面接対策 ・筆記対策
【前期】 5～8回目	・マナーの基本(第一印象、あいさつ、身だしなみ、態度、表情、姿勢)復習 ・敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、クッション言葉、間違えやすい敬語)復習
【前期】 9～12回目	・コミュニケーション(聞き方・話し方、接客の言葉遣い、お客さま心理の理解)
【前期】 13～16回目	・ビジネスマナー①(ビジネスマナーの意義、来客対応、訪問のマナー、電話対応)
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。接遇の基本、言葉遣いなどに関わる知識や技能を問う。
【後期】 20～23回目	・ビジネスマナー②(ビジネス文書、ビジネスメール、指示の受け方・報告のしかた)
【後期】 24～27回目	・日本のしきたり①(冠婚葬祭のマナー、年中行事、贈り物のマナー)
【後期】 28～31回目	・日本のしきたり②(食事のマナー「和食・洋食・中華」、お酒のマナー)
【後期】 32～35回目	・社会人としての心構え(企業人としての必要要素、職場のルールとマナー、環境設備、ストレス対策)
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。オフィスワーク、日本のしきたりなどに関わる知識や技能を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしぐみを学び、仕事の基本を知ることから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース(MA専攻)				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディードなど多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし音楽史に関する講義を行う。				
授業概要					
電話機の誕生や蓄音機の発明まで遡り、スピーカー、ミキシングコンソールやレコーディング機材などの音響・録音技術がどのような発展を遂げてきたか、また、レコード、カセット、MD、CD、デジタルオーディオプレイヤーやインターネット上のコンテンツなどの音楽メディアの変遷を学び、時代背景や技術の発達の知識を習得する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・電気音響工学の変遷を学び、今日使用されている機材への理解を深める。 ・流通している音楽メディアの変遷を学ぶ事で、普段聴いている音楽への知識を高めると同時に、今後も進化して行くであろう音楽メディアへ対応出来る教養を身につけ音響、録音機材の歴史、音楽メディアの変遷への教養を高める事で、現場で活かせる知識を養う。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要の説明。 音響の成り立ち、PAIについて。
【前期】 5～8回目	MTRからDAWまでの変遷。 ダイナミックマイクロフォンについて。
【前期】 9～12回目	コンデンサーマイクロフォンについて。 マイクロフォンの成り立ちについて。
【前期】 13～16回目	蓄音機についてレポートを作成。 ミキシングコンソールの変遷。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期授業内容から抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。
【後期】 20～23回目	音楽メディアの変遷。 デジタル技術の発展について。
【後期】 24～27回目	1940年代～1960年代の音響、録音技術に関する講義。
【後期】 28～31回目	1970年代～1980年代の音響、録音技術に関する講義。
【後期】 32～35回目	1990年代から現在に至るまでの音響、録音技術に関する講義。
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場で扱う機材の変遷を知る事で、各メーカーが出す機材の意図を垣間みる事が出来る様になるはずですが、そこを抑えておけば、今後新しい機材が出た際や、音響・録音の概念が時代とともに変化しても対応出来る知識が身につきます。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	電気・舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡で照明家として活動中。近年では、Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレート、福岡発アイドルグループ「LinQ」の専属照明オペレーターや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。 上記の経験を活かし電気と舞台全般における講義を行う。				
授業概要					
<p>①芸能の発生から芝居小屋の広がり、近代の公会堂、劇場、ホールへと歴史的に変化していった、日本の劇場、ホールについての学習する。</p> <p>②世界の劇場建築の変遷について、ギリシャからローマ時代、オペラ、クラシック音楽などの上演に適した専門劇場の形態を学習する。</p>					
到達目標					
<p>・卒業後、劇場等演出空間での創造性溢れる自由な表現活動に携わるスタッフに求められるのは、高度な創造と制作であり、さらには円滑で、より安全な公演実施には、音響、照明などの分野を超えた共通認識が必要とされ、公演に携わる者のコミュニケーションのために、必要不可欠な知識を習得が求められる。制作スタッフは、専門教科内で身につける知識とは別に、劇場が歴史的に、また洋の東西を超えて、文化創成、文化発信、文化体感の空間であることを認識することで、単なる技術者にとどまることなく、文化の一翼を担う、インテリジェンスを身につけた存在を到達目標とする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	●社会の中での芸能とホールの存在意義。
【前期】 5～8回目	●日本の公立劇場とホール。
【前期】 9～12回目	●欧州のホールの歴史、構造と文化的背景。
【前期】 13～16回目	●ホール、劇場の性能と機能。
【前期】 17～19回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	●文化芸術政策と劇場ホール。
【後期】 24～27回目	●実演芸術の制作。
【後期】 28～31回目	●劇場・音楽堂 その設備と運用の実際。
【後期】 32～35回目	●総括。
【後期】 36～37回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	卒業後の進路であるイベント制作会社、音響会社、照明会社、ローディー会社、プロダクション等の現場に臨むに当たり、これからエンターテインメント就労する中では、習得する機会のない基礎的な舞台全般知識の習得を目指します。
備考	舞台技術の共通基礎

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント福岡校のイベント制作コースを卒業後、企画制作コースのアシスタントとして勤務。並行してアーティストのマネージャーも担当。この授業では上記の経験を活かし、企画制作、マネージャー、レコーディングに特化したPCの授業を行う。				
授業概要					
パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなせることが必須項目である。この講義では、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と応用的な使いかたを学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。 ・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどである。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Excelレイアウトの応用。(Excel方眼紙、枠線の練習)
【前期】 5～8回目	Excel関数の紹介。(SUM, MAX, MIN, AVERAGE, IF, IFERROR)
【前期】 9～12回目	Excel関数の紹介(VLOOKUP)、マクロの基本、Wordの復習。
【前期】 13～16回目	Wordのレイアウト要素確認。(用紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【前期】 17～19回目	■前期試験: Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 20～23回目	Wordのレイアウト要素確認。(表、画像の埋め込み、紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【後期】 24～27回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方①、ストーリー作成①、サンプルプレゼンテーション①(発表)
【後期】 28～31回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方②、ストーリー作成②、サンプルプレゼンテーション②(発表)
【後期】 32～35回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について復習。
【後期】 36～37回目	■後期試験: 実技試験のみ(Word/Excel/PowerPoint) 用途に応じて、これらOfficeソフトウェアを適切に選択し、学んだ技術を駆使しつつ、創造力をいかして課題を解決する文書ファイルが作成できるかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないパソコンによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスや音響会社に長年在籍の後、現在はフリーランスとして福岡を拠点とするアーティストや劇団の専属PAを担当する他、様々なイベントにおいてステージ進行の業務に従事。 上記の経験を活かし音響全般における講義を行う。				
授業概要					
<p>①音響に関する専門用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する応用知識を学ぶ。</p> <p>②スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・実際の現場では時間がなかったりなど、わからないことでも聞きづらい状況は多々あります。音響の基礎から応用までを学習し、実作業の中で実際に活かせる知識を身につけます。</p> <p>・音響に対する幅広い知識を身につけ、実務での予期せぬ自体にでも活かせる用に理解度を深めるのが到達目標です。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音響に関する電気知識・電気抵抗について。
【前期】 5～8回目	空間系・ダイナミクス系エフェクターについて。
【前期】 9～12回目	デジタル技術・機器間の同期について。
【前期】 13～16回目	デシベルや音圧について。 前期の復習。
【前期】 17～19回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	1年次から2年次前期までの復習と補足① 最新のPA・レコーディングシステムについて①
【後期】 24～27回目	1年次から2年次前期までの復習と補足② 最新のPA・レコーディングシステムについて②
【後期】 28～31回目	レポート作成①
【後期】 32～35回目	レポート作成②
【後期】 36～37回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響に関する基本的なことから応用まで、実務で使用する知識を学習します。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディードなど多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かしサウンドアナライズに関する実習を行う。				
授業概要					
①チェストボイス、ミックスボイス、ヘッドボイスやファルセットなどの歌声、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム及びキーボードなど様々な「音」を分析し、それぞれの性質及び特徴を理解するとともに音響エンジニアとして必要な応用知識を身につける。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・歌声の種類を理解する。 ・楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析する。 ・DAWソフトを使用して、視覚的、聴覚的に理解度を深める。 ・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。 ・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。
【前期】 5～8回目	アコースティックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 9～12回目	エレキギターに関する音の分析、解説。
【前期】 13～16回目	ベースギターに関する音の分析、解説。
【前期】 17～19回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 20～23回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 24～27回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 28～31回目	鍵盤楽器に関する音の分析、解説。
【後期】 32～35回目	その他の楽器に関する音の解説。
【後期】 36～37回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	映像製作実習		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	映像Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース(MA専攻)				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<p>絵画教室講師、3DCG映像制作会社勤務を経て、現在フリーランスのイラストレーターとして活動中。 大手食品メーカー店内イラストや冊子挿絵、様々なパンフレットデザイン等、幅広く制作。 作家として、ライブペイントや個展・グループ展も開催。その他、デザイン系専門学校講師兼任。</p>				
授業概要					
<p>映像音響処理に必要な知識を身につける。 Adobe Premiere Pro、After Effectsの基本操作や応用方法を身につけ、動画編集について実習を行う。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・映像の基礎知識を理解する。 ・動画編集に必要なPC技術を学ぶ。 ・編集をしながら、知識のどの部分に該当するか考えることが出来る。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	「色の基礎・iMovie 基本操作」
【前期】 9～16回目	「編集の基礎・Adobe Premiere pro 基本操作」
【前期】 17～24回目	「映像信号の基礎」
【前期】 25～32回目	「編集技術の基礎」
【前期】 33～37回目	「デジタル映像信号の規格」 ■前期試験：前期分の知識範囲からペーパーテスト
【後期】 38～45回目	「各種VTRフォーマットについて・Adobe After Effects 基本操作」
【後期】 46～53回目	「デジタルテレビ放送の基礎」
【後期】 54～61回目	「編集機器、周辺機器について」
【後期】 62～69回目	「映像信号の測定、管理について・撮影技術の基礎」
【後期】 70～74回目	「フィルム関連作業の基礎」 ■後期試験：後期分の知識範囲をメインに、全体からペーパーテスト
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	普段何気に見ているTVや映像作品の制作工程には「プリプロダクション」と「ポストプロダクション」に分類されます。完成した作品を放送局等へ納品する際、厳しく定められた技術基準や規格に合った納品形態が求められます。知識を身につけながら、編集技術も磨き、映像分野に強い人材を目指します。
備考	講師作成資料を適時配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MA編集Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	Pro ToolsⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース(MA専攻)				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約20年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。 上記の経験を活かしMA編集技術の実技指導を行う。				
授業概要					
①Pro Tools における編集、ミキシング技術を学びさまざまな要望に迅速に対応できる技術を習得する。 ②Pro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践でも活用できるよう学習し、1年時に学習した内容を踏まえ、一つの作品が仕上がるまでの一連の流れを実践・経験する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> レコーディングを円滑に進行できるようPro Tools における編集、操作技術を習得し、迅速に録音現場を実用できるようになる。 Mac PC、Pro Toolsの基本的な構造や使い方の理解及びトラブルシューティングやMac、Pro Toolsにおける細かい設定法や、それに伴う知識を習得し、実践に活かせるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	レコーディング時に使用するProTools の機能や操作(ショートカット、プレイリストの活用、タイム管理など)の理解を深める。 レコーディング時に迅速に対応するための手法を学び練習する。
【前期】 9～16回目	ProTools の編集機能について。 リズムセクションのタイミング補正技術の向上、ストリップサイレンス、エラスティックオーディオなどProTools の波形編集の理解を深める。
【前期】 17～24回目	ProTools の機能について。 TCETリマツール、audiosuite、ペンシルツール等のツールの使用法、トラックビューセクターでのプレイリスト表示、テイク作成、プラグインの使用に伴うレイテンシーの遅延補正など。
【前期】 25～32回目	ProTools と連携させた、MelodyneやRXを使用したピッチ修正やノイズ除去について。
【前期】 33～37回目	■前期試験:主にProToolsにおいて実践的なシチュエーションでのトラブルシューティングなどを行い対応能力を判断する。
【後期】 38～45回目	クリップゲイン、オートメーション、VCA、マスターフェーダーなど音量管理について。
【後期】 46～53回目	Pro Tools実習にて学んだ項目を復習し理解を深める。 Pro Tools でのミックスダウンの手法や便利機能について。 セッションデータの整理の方法(未使用のクリップ、プレイリストの消去、セッションのコピー保存等の理解。
【後期】 54～61回目	2年間Pro Tools実習にて学んだ項目を復習し理解を深める。 録音した素材を使用し、楽曲編集・ミックスを行う。 視聴会などを行い改善点やアイデアを出し合うなど。
【後期】 62～69回目	2年間Pro Tools実習にて学んだ項目を復習し理解を深める。 録音した素材を使用し、楽曲編集・ミックスを行う。 視聴会などを行い改善点やアイデアを出し合うなど。
【後期】 70～74回目	■後期試験:実際のレコーディング環境を再現し、さまざまなクライアント・アーティストからの要望への対応能力を判断する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際のレコーディングの現場の流れなどを学び、Pro Tools及びPro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得します。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MA実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディングⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース(MA専攻)				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約20年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。 上記の経験を活かしMA素材収録などにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①レコーディングスタジオを使用して、マイキングや回線チェックなどの機材セッティングの手順及び方法を学ぶとともに、Pro Toolsの発展的なオペレート技術を習得する。</p> <p>②実際にナレーションやバンドのレコーディングをオペレートする事でレコーディング及びMAエンジニアとしての経験を積んでいく。</p>					
到達目標					
<p>Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。</p> <p>RXを用いた録音音声などのノイズ除去技術の習得。</p> <p>Pro ToolsやRXを使用してさまざまな音声素材に対しての編集、ノイズ除去を学習し、実務で対応できるようにする。</p> <p>・アプリケーション(Pro Tools、RX、Video Slave)の操作において、ショート・カット等を用いて、滞りなく各セッションを進めることができる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	Pro Toolsを使用したSE及びMEの統一感を含めた整音作業。
【前期】 9～16回目	フォーリー素材、SE及びMEの統一感を含めた整音作業。 Pro Tools でのノイズ除去。
【前期】 17～24回目	アフレコ素材、SE及びMEの統一感を含めた整音作業。 視聴会。(整音作業、ミックススに関するディスカッション)
【前期】 25～32回目	ノイズ除去ソフトRXを使用したノイズ除去。 ライブウィークに向けた担当シーンの割り当てやMIX作業に関するディスカッション。
【前期】 33～37回目	■前期試験:実技試験を実施し、ノイズ除去ソフトRXを使用したノイズ除去の正確性及び機材操作を問う。
【後期】 38～45回目	ProTools・Media Composerの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上①
【後期】 46～53回目	ProTools・Media Composerの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上②
【後期】 54～61回目	卒業制作①
【後期】 62～69回目	卒業制作②
【後期】 70～74回目	■後期試験:実技試験を実施し、MAにおけるPro Toolsの操作性全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解 /正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際のレコーディングの現場の流れなどを学び、ProTools及びProToolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得します。
備考	特になし。